

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171700303		
法人名	株式会社ウエルフェアクリエイション		
事業所名	ソレアード鴻巣		
所在地	埼玉県鴻巣市上谷141-1		
自己評価作成日	平成25年12月25日	評価結果市町村受理日	平成26年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成26年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の尊厳を守り、明るく暖かくやすらぎのあるケアを全スタッフが取り組んでいます。ご利用者様お一人お一人が生き生きとした時間を過ごしていただけるよう心がけております。又、看取りをご希望していただいたご利用者様には、残された大切な時間を何よりも安心して穏やかに過ごしていただけるようにつとめています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・恒例の納涼祭では事前準備から当日の司会進行まで、職員と共に取り組み、当日はドレスで着飾り歌や社交ダンスを楽しまれたり、年末の大掃除や門松づくりなど、利用者が明るい笑顔で張り合いのある日々を過ごされるよう支援をされている。また、朝湯や長湯を楽しまれたり、食の嗜好品への対応、居室でゆっくり読書を楽しむなど、利用者個々の、その人らしさを大切にしたり取り組みが行われている  
 ・ご家族のアンケートでも、「健康面ではきちんと管理してくれ安心です」、「本人の様子をみて、その時々で対応して頂いています。今まで通り、本人に寄り添った介護を宜しくお願いします」等のコメントが寄せられ、ご家族が現在のサービスに満足されていることが伺える。  
 ・目標計画の達成状況については、家族向けの定期連絡時に食事の献立表を送付されなど、目標が達成されている。その他の課題についても、改善に向け継続的な取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をスタッフルームに貼りだし実践する様努めています	企業理念に基づく、年次行動目標がつくられ、管理者と職員はそれらを共有し、明るい笑顔で楽しく、安全に日々過ごされるよう、気配りされた利用者本位のサービスが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々お会いした時の挨拶、イベント等催し物にご招待させていただき交流しています	散歩など外出の際には地域の方々と挨拶を交わされたり、納涼祭などの事業所催事や各種ボランティア活動時にも地域の方々を招き、利用者と共に楽しませている。また、近くの神社や図書館に出かけるなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けるよう取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩を通じて、挨拶をしたり、言葉を交わしたりすることにより認知症を理解していただけるようにしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で施設の取り組みを随時報告し皆様との話し合いで意見を参考にさせていただいています	事業所からの救急対応や熱中症対策などの報告のほか、参加者からも地域交流や他グループホームの取り組みなどの話し合いが持たれ、事業所運営やサービス向上に活かされている。	会議開催回数の増加は図られたものの、概ね2月に1回以上の開催基準は満たされておらず、改善に向けた継続的な取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、福祉課の職員と連絡を取り合っている	事務手続き時や報告・相談などの機会のほか、市主催の介護サービス事業所管理者会議の機会などでコミュニケーションを図り、良好な協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組み言葉かけにもスタッフ全員がご利用者様に安心して生活していただけるように配慮しています	法人全体でのリーダー研修や事業所の全体会議で身体拘束に関する理解を深める勉強会が行われ、言葉での拘束を含め、身体拘束をしないケアに取り組まれている。不穏になる利用者に対しても、行動を制限することなく、利用者に合わせてケアをされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議等で虐待について理解し防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学び理解に努めています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をし、疑問質問にお答えしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望は、随時お受けし、検討し反映できるようにしている	利用者については日頃の関わりの中で、家族とは面会時や運営推進会議などの機会に意見・要望を聴き取られている。その意見や要望は職員間で話し合い、事業所運営やサービス向上に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議、全体会議などで意見、提案を聞き運営に反映させています	全体会議や個別面談などの機会に意見・提案の聴き取りをされている。また、各種委員会が組織されるなど、発言し易い環境がつけられ、活発に意見・提案が行われ、レクリエーション企画や利用者のADL低下防止策など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況の把握、就業環境の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設内の研修に熱心に取り組んでいます		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は同業者との交流の機会を設けるように努めサービス向上に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子をみてお声かけにてお話しを伺いご要望をお聞きして対処しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の情報をもとにご本人により良いサービスを提供するように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を関係者と話し合い自立支援を含めたサービス対応に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と喜怒哀楽をともに共感している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご本人の様子をご説明し、ご自宅にいらした時の話なども聞いて参考にさせていただく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人との会話のなかで話題にするようにしています	知人・友人や同好会の仲間との相互交流、手紙のやり取りや電話の取り次ぎ、馴染みの店での買物、家族の協力を得て墓参りや日帰り温泉などに出かけるなど、これまでの関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが皆様の会話を繋ぐようなコミュニケーションをとるように努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談、支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを摂りご本人の気持ちを把握するよう努め希望、意向に添うように意識している	利用者一人ひとりとの信頼関係を大切に、寄り添うことで、思いや意向を把握している。意思疎通が困難な利用者についても言葉や表情・仕草などから汲み取り、利用者本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の記録、ご家族の話を参考にしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の見守りの中でご様子を観て把握するよう努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の要望を取り入れ、ご本人により良い生活を送って頂くよう話し合いリスクを考慮して作成している	利用者や家族には日頃の関わりの中で、思いや意向を聴きとり、医師・看護師の意見を含め、関係する職員全員で意見交換を行ない、その人らしさを大切に、現状に即した介護計画が作成されている。	必要な関係者との話し合いのもと、介護計画書の作成をされているが、家族への説明・同意手続きの一部に要件を欠くと思われることがあり、家族にカンファレンスへの参加を呼びかけるなどの取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、職員間でリスク等を共有しカンファレンスでその都度話し合い介護計画を見直ししています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の帰宅中にトラブルがあり、夜間ご自宅まで行ったように、既存のサービスにとらわれず、柔軟にその時々対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしが送れるよう、地域資源をいかしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の意向に沿った受診ができるよう、支援している	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援も適宜行われ、医師や家族への必要な利用者情報の提供も行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化も看護師に相談し適切な対応ができるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者との情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンスを行い病状の進行に合わせてケアを行うよう努めています	利用者の症状に合わせ、家族から共同生活終末期契約書の同意をいただき、早い段階から出来る限りの支援体制を整えている。また、リーダー会議で定期的に看取りについての研修も行なわれるなど、体制を整備され、看取り支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習や研修等で実践に役立つよう努めています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練に参加し避難方法を身につけるよう努めています	全社的な取り組みとして、毎月定例での防火管理者会議が行われ、夜間発生時の通報・初期消火など、災害時対処方法について検討をされている。また、事業所としても定期避難訓練の実施ほか、救急救命講習の受講や備蓄品の整備など、体制整備に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語で会話させていただき、個人情報に関わることはご本人とのみしております	ドアの開放しに気づかいされたり、利用者情報の交換時にも他利用者に聞こえぬよう小声で話したり、場所を考慮されるなど、利用者の人格を尊重した対応と個人情報の責任ある取り扱い、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮などきめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のご希望をお伺いして決めていただいています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースにあわせて生活していただいています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りの洋服は、いつでも着用していただけるように分かりやすい所に収納し、整容に努めています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な野菜の皮むき、食器の片付けを手伝っていただいたり、おやつを皆で作ったりしています	利用者個々の力に合わせ、食事の準備・後片付けなど職員と共に行っている。また、テイルームでの歌声喫茶の際にはケーキバイキングを楽しまれたり、ホットケーキやおはぎなど手づくりされている。その他、外食の支援や個別の嗜好品を取りそろえるなど、利用者の好みを大切にしたり取り組みが行われている。	食事は利用者だけでなく、家族に対しても関心の高いことから、家族向けに献立表を送付されているものの、一部に理解不足のところもあり、毎月の「ルード」通信などで広報するなど、事業所の食事に対する取り組みを理解をして頂くための継続的な取り組みを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立が重複しないよう工夫し、栄養のバランス、いどりに気配りする。水分摂取量も記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて口腔ケアをして頂き、介助が必要な方は、スタッフがお手伝いさせていただきます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を把握するように心がけ、トイレ誘導にてトイレで排泄していただけるようにしています	出来るだけトイレでの排泄を心がけ、一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行い、トイレでの排泄や自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質のお食事の提供、水分摂取の促し、トイレでの腹部マッサージ、運動などとりくんでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否された時は、無理せず、次回入浴をおすすめする	入浴日と時間は設定されているが、できる範囲で利用者の希望に沿い、朝湯や長湯をされるなど、好きな時間に入浴できるよう支援されている。また、併設サービスの機械浴も活用し入浴をされるほか、利用者個々の状態に合わせて、職員複数での介助体制をとるなど、安全面にも配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度管理、ベッドメイキング等、いつでも休息していただけるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、把握するように努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、色塗り、歌、季節の作品作りで楽しんでいただけるよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、食事、花見等、季節に応じたの外出を支援しています	事業所周辺での散歩、一人ひとりの希望に沿った100円ショップや衣料店で買物や外食、季節毎には地域の公園などに出かけ、お花見を楽しまれるなど、日常的に外出の機会が設けられている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	季節の変わり目などで洋服の買い物に所持金額をお伝えして一緒に買い物に出かける		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、知人の方からの電話の取り次ぎ等また、ご本人自らの電話も支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの入り口には、季節感のあるディスプレイ、共用の空間には分かりやすい表示の工夫、皆様の写真、作品を展示しています	利用者にとって不快や混乱を起こさぬよう、室温や湿度・音・居室表示など、きめ細かな配慮がとられている。また、貼り絵やぬり絵、書道作品や花など季節感のある飾り付けられているほか、ソファが置かれ、ゆっくり過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにて気の合った方同士でお話しされたり自由にされています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物、写真等見慣れた飾りもので安心して過ごしていただけるよう工夫しています	思い出の写真、馴染みのタンスや寝具・こたつやラジカセなどが持ち込まれるほか、書斎風に設えるなど、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。また、毎朝掃除の時間が設けられ、共用スペースを含め清潔維持と衛生管理に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室の名札、建物内部は、安全に歩行できるよう整理しています		

(別紙4(2))

## 目標達成計画

事業所名:ソレアド鴻巣

作成日:平成 26年 3月 3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催回数が前年度より増回したが、まだ開催基準を満たしていない。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催する。	2ヶ月に1回開催できるように取り組む。	2ヶ月
2	26	面会時にご家族より話を聞くことが多く、特別なことがない限り改めてカンファレンスの参加を呼びかけてこなかった。	1年に2回は家族参加のカンファレンスを開催する。	一人につき1年に2回カンファレンス開催曜日の手紙を家族と送付し参加を呼びかける。	6ヶ月
3	40	ご利用者様に満足していただけるよう食事作りには工夫しているが、ご家族に対して食事に関しての報告をしてこなかった。	食事に関する取り組みをご家族に理解していただけるよう努力する。	月1回の手紙送付時に実施メニュー表をユニット別に同封する。	2ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。